

第12回小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議議事録

【日時】 令和5年7月25日（火）18時00分～19時30分

⇒18時00分～19時55分

【場所】 小諸市役所3階 第1・第2会議室

【出席者】: 細谷会長、木内副会長、原委員、村田委員、宇野委員、依田委員、武者委員、佐藤委員、井出委員、下崎委員、清水委員、株式会社URリンケージ、事務局

【欠席者】: 塩川委員

1 開 会

2 換 拶

【会長】

梅雨明けしたが、暑い日が続いているので、熱中症に気を付けて生活していただきたい。

最近、徳島市で、「燃やせるごみ」の名称を「分別頑張ったんやけど、燃やすしかないごみ」に変更した旨のニュースを見た。

市民に訴えかける方法の1つではないかと感じた。

別の市では、市長選挙で「ごみ指定袋の値段を上げる・上げない」が大きな争点となったようである。

様々な場所で、ごみ問題が取り上げられている。

ごみに対する関心が高まっていると考えられる。

今回の会議でも、活発な意見をいただきたい。

【事務局】

今回、ごみ処理基本計画策定に関してコンサルタント委託をしている株式会社URリンケージから3名の職員に出席いただいている。

ごみ処理基本計画素案について、ご説明いただくので、ご承知いただきたい。

先日開催された「環境審議会」でも同様の内容を説明しているため、同じ内容を聞く委員の方が数名いる。

環境審議会と違う部分についての説明も併せて行うので、ご承知いただきたい。

3 会議事項

(1) ごみ処理基本計画策定進捗状況について

【URリンケージ】

⇒URリンケージからごみ処理基本計画素案の説明を行い、委員の意見を求めた。

○ ごみ処理基本計画素案概要

ごみ処理基本計画は、市町村が長期的・総合的視点に立って、計画的なごみ処理の推進を図るための基本的な方針を定めるものである。

小諸市次期総合計画、次期環境基本計画との整合を図り、これまでのごみ処理基本計画を改定していく。

次期ごみ処理基本計画は、令和6年度から令和13年度までの8年間を計画期間とし、小諸市総合計画の見直しに合わせて、ごみ処理基本計画の見直しも行う。

現在のごみ処理基本計画(平成26年度から令和5年度)で実施施策とした「ごみの減量」、「ごみの分別」の項目が達成できておらず、課題がある。

令和5年2月に実施した市民アンケート(2,000世帯を対象)では、「燃やすごみの中に生ごみや古紙類、プラスチック製容器包装を混入させている」旨の回答が多くあった。

また、地区別、居住期間別の結果についてもまとめ、問題点が違うことが分かった。

次期ごみ処理基本計画では、環境基本計画との整合性を取り、「カーボンニュートラルで循環型のまちづくりを推進する」ための様々な施策を示していく。

市民会議の委員の皆さんには、「焼却する家庭ごみを減らす」、「地域コミュニティとの連携」、「事業系ごみの資源化の推進」の観点からご意見をいただきたい。

※質疑応答、意見

【委員】

市民アンケートのグラフで「折れ線グラフ」を何箇所か使用しているが、分かりづらいところがある。

グラフ上の「はい」や「いいえ」の回答の間の線には、何の意味もないと思う。

円グラフや棒グラフを使用した方が、分かりやすいところがあるので、設問に適したグラフを使用した方がよいのではないかと考えた。

また、「無回答」の回答は、指数で表しているため、グラフ上では多く見えてしまう。

しかし、全体的に見ると「無回答」の比率は少ないと思うので、ここも分かりやすいグラフを使用できれば良いと考える。

【URリンケージ】

分かりやすいようにグラフを訂正させてもらう。

【委員】

資料の中に「一人1日当たりの家庭系ごみの排出量」の表記があるが、家庭系だけでなく、事業系も含めたごみの排出量の表記に変更した方が良く考える。

先日開催された「環境審議会」で同じ内容を指摘した際に、事務局は「変更を検討する」と回答していたが、全く変わっていない。

どちらの表記にするのか、事務局の考えを示して欲しい。

また、令和3年度の「一人1日当たりの家庭系ごみの排出量」の数値が、「606g」と記載されている。

しかし、以前事務局からもらった長野県が公表している資料を見ると、「606g」は令和2年度の数値である。

令和3年度は、「596g」なので、数値は正しいものを記載していただきたい。

【事務局】

一人1日当たりのごみの排出量については、事業系も含めた表記をしていきたいと考えている。

数値の間違いについては、事務局の確認不足である。

すぐに訂正し、次回以降の資料は正しい数値のものをお渡しする。

【委員】

ごみ処理基本計画の内容が分かりやすくまとめられていて良いと思う。

市民アンケートの傾向や今後の課題についても整理されていて、勉強になった。

しかし、今回説明していただいたごみ処理基本計画素案は、既に完成しているレベルの出来なので、市民会議で何を話し合うべきなのかが分からなくなってしまった。

今後の市民会議で、委員に求められているものは何なのか、教えてもらいたい。

【事務局】

今後の市民会議では、ごみ処理基本計画の内容について、委員の方から意見をいただき、計画内容を再検討して、よりよいものにしていきたいと考えている。

【委員】

市民会議委員委嘱式の際の資料を確認すると、市民会議の主な審議事項は、「①ごみ処理基本計画の策定に関すること」、「②ごみの減量・分別などの適正な処理の推進に関すること」となっている。

ごみ処理基本計画の素案が上がってきたことは良いと思うが、これまでの市民会議で話し合ってきたことが全く反映されていない。

これまでの積み重ねがごみ処理基本計画に反映されなければ、委員が何のためにいるのかが分からない。

市民会議の進め方が違うのではないかと思う。

【委員】

ごみ処理基本計画素案・計画案について、委員が意見を言い合い、さらにより良いものにしていくという説明で納得できた。

【委員】

今までの市民会議で、委員から発言があった意見が今回の「ごみ処理基本計画素案」のどこに反映されているのかが見えない。

具体的にどのように反映するのが難しい部分もあるが、計画の中に反映していただきたい。

ごみ処理基本計画の完成・公表までに、あと数回、市民会議が開催される。

9月に開催される第13回市民会議で、今回の素案を改訂した「ごみ処理基本計画案」の説明があり、委員が意見を出し合う。

そして、さらに委員から出た意見を反映した計画案が、11月の第14回市民会議で発表されるという流れだと思う。

過去の意見、そしてこれから出る意見をどのようにごみ処理基本計画に反映していくかを考えていただきたい。

【委員】

一人1日当たりのごみの排出量の表記方法の関係だが、家庭系だけでなく事業系も含めないといけないということなのか。

【委員】

他の市町村は、家庭系ごみの排出量と事業系ごみの排出量の合計で表記している。

事業系ごみを含めず、家庭系ごみだけで表記して、全体のごみの排出量を少なく見せようとしていると勘違いされる可能性があるため、事業系ごみも含めた排出量にするべきであると考えます。

【委員】

他の市町村が合計の排出量であれば、小諸市も家庭系ごみと事業系ごみの合計排出量で表記した方がよいのではないかと考える。

また、市民アンケートの結果で、地区ごとの問題点がまとめられていた。

地区ごとに必要な対策を実施していけば良いと思った。

【事務局】

一人1日当たりのごみの排出量は、合計排出量を表記し、さらに内訳で生活系と事業系に別けて表記したいと考える。

長野県や全国の市町村の表記方法と同じで、合計〇g(生活系〇g、事業系〇g)という表記にするということである。

また、市民アンケート結果を参考にして、地区ごとに必要な広報、対策を実施していきたいと考える。

【委員】

市民アンケート結果をまとめていた際、資料に出ていない内容で、他に何か感じたことはあるか。

【URリンケージ】

小諸市は、全体的にごみの分別を頑張っている印象を受けた。

ごみ問題に興味を持つ人は少ないが、小諸市民は、興味を持っている人が多かった。

生ごみを分別していること、ごみカレンダーをほとんどの人が確認していること等からも、小諸市民は、分別をしっかり行っていると感じた。

【委員】

URリンケージ株式会社では、小諸市だけでなく、他の市町村のコンサルティングもされていると思う。

他市町村でも「ごみについてのアンケート」を取っていれば、他市町村の住民の考えや傾向も把握されていると思う。

他の市町村と小諸市を比較したデータ等を提供してもらうことはできるか。

【URリンケージ】

小諸市と同じ規模の市町村との比較をすることはできる。

しかし、他の市町村と比べてごみが多いか少ないかよりも、自分たちで決めた目標を達成するためにごみ減量対策をどう頑張るかについて注視した方が良いと考える。

会長挨拶の際、徳島市のごみ指定袋名称変更の話があった。

弊社は、徳島県の「上勝町」にごみの話を聞きにいったことがある。

上勝町は、「ごみゼロの町」として有名なところで、町内にはごみ集積所が1箇所しかない。

ごみ収集車でのごみ収集がないので、町民は自分で町内唯一のごみ集積所にごみを持ち込む。

ごみは、45種類に分別され、リサイクル率は80%を超えている。

上勝町は、ごみを資源化するように、町全体で努力している。

他の市町村と比べてどうかよりも、小諸市の目標に向かって、どう取り組むかが大切なのではないかと思う。

【委員】

これまでの市民会議では、近隣市町村と比べて小諸市のごみの排出量はどうかという議論をしてきた。

他の市町村よりもごみの排出量を少なくするにはどうすれば良いかと考えることも重要であるとする。

何か元となる指標は必要であると思うので、データ等を可能な限り提供いただきたい。

【委員】

ごみ処理基本計画素案についての議論だけになっている。

前回の会議で、委員から意見があった「ごみ減量ストーリー」について、事務局から説明してもらったかどうか。

【事務局】

⇒事務局から今後の方向性についての説明を行い、委員の意見を求めた。

○ 今後の方向性(ごみ減量のストーリー)

クリーンヒルこもろの年間のごみ焼却量を現在の約7,000tから約6,000tへ減量することで、焼却コストの抑制・焼却炉の負荷を減らし、施設の長寿命化を図ること、二酸化炭素の発生量抑制を図ることが目標である。

具体的には、燃やすごみに混入する生ごみや古紙類等の資源物の分別を促すこと、プラスチック資源の一括回収を行う等して、燃やすごみの焼却量を1,000t減らす。

市民一人1日当たりのごみ排出量を現在の「807g」から最終目標「785g」にすることを目標とする。

また、リサイクル率は、現在の「約25%」から「30%」へ向上させることを目標にする。

※質疑応答、意見

【委員】

まず、年間のごみの焼却量を7,000tから6,000tに減量する目標だが、いつまでに達成するのか時期が分かりづらい。

「現在」や「最終目標」という表記では、抽象的で分かりにくい。

現在や最終目標ではなく、「令和〇年度」という表記の方が分かりやすい。

次に、プラスチック資源の一括回収を行う意志はあるのか。

これは、市民会議の委員が議論等をする前に、事務局の強い意志がなければ話が進まない。

長野県内だと、松本市は、今年の4月からプラスチック資源の一括回収を実施している。

プラスチック資源の一括回収を行うことにより、確実にごみ減量の効果がある。

今から方針を決めないと、先に進めない。

私は、プラスチック資源の一括回収は必ず実施した方が良いと思うので、しっかり考えていただきたい。

【事務局】

令和8年度からの一括回収開始を目指して、進めていきたいと考えている。

【委員】

古紙類の分別の関係で、「古紙類が資源物に分別された場合、焼却費用の削減、売却益で2,000万円を超える節約効果がある」とのことであるが、これは、小諸市にとってのメリットである。

2,000万円の節約効果があることだけをそのまま市民に伝えても、市民は動かない。

「市にとって」から、「市民にとってどうなのか」に置き換えていくやり方、市民への伝え方等をこの市民会議で議論できれば良いのではないかと考える。

保険営業の例を挙げると、保険の必要性をお客に伝えるだけでは契約は取れない。

お客が欲しくなるような気持ちにならないと契約にはつながらない。

古紙類の分別による2,000万円の節約効果も保険営業と一緒に、数字だけ言われても、市民が古紙類の分別に努めようという気持ちにはならない。

市民が自ら古紙類を分別しようという意識を持ってもらえるような伝え方を考えなければならない。

【委員】

今回の市民会議で市民に対する伝え方を議論するのは難しいと思うが、次回以降の市民会議で議論する時間を設けていただきたい。

【委員】

会長が会議冒頭の挨拶で「燃やすごみ指定袋の表記」の話をしていた。

私も、先日、「燃やすごみの表記を変更した市町村を取り上げているテレビ番組」を見た。

その市町村は、「燃やすごみ」を「燃やさないごみ」に表記を変えたら、10%ごみが減ったそうである。

小諸市に置き換えると、ごみの焼却量の7,000tの10%だと、700tになる。

ごみ指定袋の名称を変えるだけで、効果があるのではないかと考えた。

私の妻に、「燃やすごみ」が「燃やさないごみ」に名称が変わったら、どう思うか聞いてみた。

妻は、「捨てようとしているごみが燃やさない物なのか真剣に考える」と言っていた。

指定袋の名称を変えることで、分別に取り組んでくれる市民が少なからず出てくるのではないと思う。

是非検討していただきたい。

【事務局】

検討させていただく。

【委員】

8年間で1,000t減量が目標であるが、単位がトンだとイメージがしづらい。

1年間で〇g、1日で〇gのように生活に身近な数値が必要であると思う。

ごみ減量アドバイザーの活動で、クリーンヒルこもろで小学生に話をする機会がある。

この時、小学生に対して、「令和3年度の小諸市の一人1日当たりのごみ排出量は、807gで、長野県内の市町村順位が52位になる。例えば、4gの紙ごみ1枚が増える・減るだけで、長野県内での小諸市の順位は変わってくる。」旨の説明をした。

小学生は、「紙ごみ1枚を分別するだけなら簡単じゃん」と言っていた。

より具体的な物での表現、身近な数値等にしていければ良いと思う。

【委員】

委員から意見があったように、次期ごみ処理基本計画8年間の時系列での目標数値を次回会議までに作成し、案を提示していただきたい。

また、目標数値は、実生活に関係した物による表現や数値を検討いただきたい。

【事務局】

ごみ処理基本計画内で、時系列の具体的な数値目標を示す必要がある。

時系列での数値目標を考え、出来次第、市民会議で提示できるようにする。

【委員】

長野県が一人1日当たりのごみ排出量の目標を「800g」にした際、ミニトマト1個分の減量を呼び掛けていたと思う。

食品ロス削減は、おにぎり1個分で表現していた。

誰にでもできると思ってもらえる表現で、ごみの減量を訴えることは重要であると思う。

また、令和3年度の「市町村別一人1日当たりのごみ排出量」のデータを見ると、順位の1位が南牧村、2位が川上村になっている。

南牧村や川上村は、生ごみを畑や庭に埋めて処理していると思われる。

生ごみのごみとして排出されないため、ごみの排出量が少なく、市町村別の順位も高いのだと考えられる。

小諸市の場合は、生ごみを排出しないことはできない。

過去の市民会議でも意見を出しているが、「生ごみを出さない市民に対して、無料で指定袋を配布する」等の方法が有効であると思うので、検討いただきたい。

【委員】

自分自身では分別を頑張っていると考えている人でも、まだ分別できる部分はあると思う。

例えば、「どこも破れていない綺麗な紙」であれば古紙に分別するが、「少し破れていたり、形がいびつな紙」は燃やすごみに入れてしまうという人が中にはいると思う。

名刺サイズ以上から、古紙類としてリサイクルできることを知らない人もいると思う。

分別を頑張っている人でも、さらに分別できる部分はあると思うので、啓発していただけたら良いと思う。

【委員】

名刺サイズ以上のものは再利用できるという内容等を市民に対して、積極的にPRしていただきたい。

【委員】

プラスチック資源の一括回収の関係で質問をしたい。

現在の「プラスチック製容器包装」の回収は、汚れが落ちた綺麗なものが回収対象で、汚れが取れない場合は燃やすごみになる。

プラスチック資源の一括回収になった場合、汚れているプラスチック製容器包装もプラスチック資源として回収できるのか。

それとも、現在燃やすごみに分類されているプラスチック製品類(硬質プラスチック)のみプラスチック資源に変えるということなのか。

【事務局】

基本的には、全て洗ってもらい綺麗なものがプラスチック資源の回収対象となる。

しかし、受入事業者によって、どれくらいの汚れまで許容できるかが違ってくる。
受入事業者と汚れの許容範囲について、検討していきたい。
また、プラスチック製品類は、プラスチック資源として一括回収することとなる。

(2) 生ごみ減量対策について

【事務局】

⇒第7回会議から生ごみ減量対策として検討している「生ごみ分別キャンペーン」の進捗状況、生ごみ指定袋の販売単位の変更案等について簡潔に説明した。

○概要

まず、生ごみ分別キャンペーンについてである。

小学校、保育園を対象とし、夏休みの時期に実施予定で話を進めていたが、諸事情により実施ができなくなってしまった。

よって、生ごみ分別キャンペーンの実施時期を延期することとした。

実施対象を変更し、今年の秋や冬の時期に実施しようと考えている。

次に、生ごみ指定袋の値下げ方法についてである。

第10回会議で委員から「1ℓあたりの生ごみ指定袋の値段が燃やすごみ指定袋より高いこと」、「生ごみ指定袋の販売単位の変更」についての意見があった。

指定袋の作製会社に確認を取ったところ、「生ごみ指定袋の底紙を無くせば、少し値段を安くできるが、強度が落ちてしまう」、「生ごみ指定袋の25枚1組の販売単位を10枚1組へ変更することはできる」旨の回答を得た。

生ごみ指定袋の値段を安くすることは難しいが、販売単位を少なくすることはできないため、販売単位変更案について、検討いただきたい。

最後に、燃やすごみ指定袋の収入証紙代の値上げについてである。

燃やすごみ指定袋に多くの生ごみが混入していることから、燃やすごみ指定袋の収入証紙代を上げ、生ごみの分別を促していくことも1つの案だと考えている。

燃やすごみ指定袋の収入証紙代の値上げについても検討いただきたい。

※質疑応答、意見

【委員】

生ごみ分別キャンペーンの関係は、協力を得られなかったのは残念であるが、実施対象を再検討し、是非実施していただきたい。

燃やすごみ指定袋の収入証紙代を値上げする関係は、値上げすることにより、生ごみ指定袋との1ℓ当たりの価格差は、どれくらい縮まるのか。

【事務局】

価格差がどうなるかについては、まだ計算できていない。

収入証紙代を上げるとして、どれくらいの値上げまでが妥当な範囲かについても検討したい。

【委員】

様々な角度からの検討が必要であると思う。

燃やすごみ指定袋も生ごみ指定袋も両方とも値段が高いため、値段が安いプラスチック製容器包装指定袋に生ごみを入れて排出する人が出てくる可能性がある。

生ごみを分別し、適切に排出してもらうことが収入証紙の値上げの目的の1つであるが、違った方向に行ってしまうかもしれない。

この観点についても考慮いただきたい。

【事務局】

以前から指定袋の収入証紙を値上げしたらどうかという意見はあった。

ごみ指定袋の有料化(ごみ処理手数料の徴収)は、平成18年から導入されている。

現在、ごみの焼却量が増加し、焼却費用も増加している状況であるが、17年間変更されていない。

ごみ処理手数料を見直す良い機会になると思うので、次回以降の市民会議までに意見を考えてきていただきたい。

【委員】

収入証紙を上げた場合の特別措置を考えた。

例えば、「ごみの分別・減量に協力すると宣言した世帯をシステムに登録し、登録された世帯の人はごみ指定袋を通常価格よりも安く買えるようにする」という方法はどうか。

登録者が分別をしっかりと出来ていない場合は、登録を取り消す等して、不公平がないようにすると良いと思う。

手間がかかることであるが、1つの案として参考にしていきたい。

【委員】

システムが難しいかもしれないが、検討する価値はあると考える。

何か工夫して、ただごみ袋を値上げするという印象にならないようにしていきたい。

4 報告事項

- (1) ごみ資源・収集カレンダー全戸配布結果について

【事務局】

令和5年2月下旬の区長配布で、「令和5年度小諸市・ごみ資源収集カレンダー」の全戸配布を各区に依頼した。

また、各区長に対して、全戸配布実施結果についてのアンケート回答を依頼し、70区から回収したアンケート結果を取りまとめた。

全戸配布できた区は50区、できなかった区は19区、その他が1区であった。

全戸配布できなかった理由として、「区未加入者を把握していない」、「区未加入者に配布したくない」という回答が多かった。

全戸配布をする上での問題として、区の運営力の低下や近所付き合いの希薄化等が多く挙げられた。

生活環境課だけでなく、市役所全体で取り組まなければならない課題であると感じた。

ごみ・資源収集カレンダーの全戸配布については、来年以降も実施依頼をしていきたいと考えている。

【委員】

今回初めて、ごみカレンダーの全戸配布を実施したが、どれくらいの区未加入者に届いたか分かるか。

【事務局】

各区の正確な区未加入者の人数を把握していないため、どれくらいの区未加入者にカレンダーが届いたかは分からない。

しかし、令和4年度版カレンダーの在庫数と比べて、令和5年度版カレンダーの在庫数は圧倒的に少ない。

令和4年度版カレンダー、令和5年度版カレンダーともに、同じ部数を印刷したが、令和4年度版は4,000部程余り、処分することになってしまった。

令和5年度版カレンダーは、令和5年度がスタートしてまだ4カ月程であるが、在庫がほぼなく、増刷をしなければならない状況である。

このような理由で、多くの区未加入者にごみカレンダーが届いたと思料される。

【委員】

区未加入者には配布しないと決めている区があることが分かった。

行政の情報が区未加入者には届かないということである。

これは、ごみカレンダーの問題だけでなく、他の課にも関係してくる問題であると考ええる。

生活環境課だけでなく、市役所全体で何か対策を考えて、実行していただきたい。

(2) ごみゼロの日活動結果について

【事務局】

令和5年5月28日にごみゼロの日の活動を実施した。

飯綱山公園のごみ拾いは、40名に参加いただき、約30kgのごみを拾うことができた。

クリーンヒルこもろの見学は、25名に参加いただき、環境学習や施設見学を実施することができた。

ごみ減量アドバイザーにもご参加いただき、子供たちに分別クイズを行っていただいた。

来年度以降もごみゼロの日のイベントは実施していきたいと考えている。

(3) 収集運搬事業者に対する説明会の実施結果について

【事務局】

事業系ごみの搬入検査を実施すると、事業系燃やすごみ専用指定袋内に入れることができない「生ごみ」や「廃プラスチック類」の混入が多数認められる。

よって、令和5年5月31日に収集運搬事業者に集まっていただき、クリーンヒルこもろに搬入できるごみ、搬入できないごみについての説明を実施した。

特に、産業廃棄物に分類される「廃プラスチック類」を令和6年4月から搬入禁止にすることについて説明し、契約している排出事業者に周知するよう依頼した。

小諸市からも、排出事業者に対して、「廃棄物処理施設使用許可証」の更新時説明会で説明を実施する。

排出事業者が所持している許可証の許可期間が令和6年3月31日までであることから、令和6年1月ころに更新時説明会を実施する予定である。

ごみの焼却量削減のために、事業系ごみの減量についても積極的に取り組んでいきたい。

(4) 家庭系一般廃棄物収集運搬業務実態調査（組成調査）結果について

【事務局】

令和5年6月1日に、家庭系一般廃棄物収集運搬業務を委託している浅麓工業企業組合の収集運搬業務に同行し、燃やすごみ指定袋の組成調査を実施した。

実際にパッカー車に同乗し、燃やすごみ指定袋を2地区から20袋ずつ、合計40袋回収した。

そして、回収してきた指定袋を1袋ずつ破袋し、中身を確認、品目ごとに分別した。
燃やすごみ指定袋内には、生ごみや古紙類、プラスチック製容器包装等が多数混入しており、分別ができていない状況が認められた。

また、事業系ごみと思料されるものが燃やすごみ指定袋内に混入しており、事業系ステッカーを貼付せずに事業系ごみを排出している事業者がいることも判明した。

自分の目で確認した「3割の異物」を分別してもらうように促す対策を考え、実施していきたいと考える。

(5) ごみ減量アドバイザー会議の開催について

【事務局】

令和5年6月22日に令和5年度第1回ごみ減量アドバイザー会議を実施した。

コロナ禍で会議ができていなかったため、約1年ぶりの開催になる。

今回は、アドバイザーの委嘱等を実施した。

新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられたため、今後は2～3カ月に一度の頻度で、ごみ減量アドバイザー会議を開催する予定である。

また、出前講座へのアドバイザーの派遣等の活動も積極的に実施していきたい。

(6) 衛生自治会総会の実施結果について

【事務局】

令和5年7月2日に令和5年度小諸市衛生自治会総会を開催した。

52区の衛生委員の方にご参加いただいた。

令和4年度の事業報告及び収支決算、令和5年度の事業計画案及び収支予算案等についての承認を受けた後、学習会を実施した。

学習会では、衛生委員の役割や環境美化交付金制度の説明等を行った後、質疑応答を実施した。

今回、各区の衛生委員に対して、朝の時間帯に地域の集積所に立って欲しいというお願いをした。

衛生委員が集積所前に立ってもらうだけで、ごみの分別を促す効果があると考え

る。
集積所に立っていただけるかは各区の判断によるが、今後も衛生委員に対して、同様の依頼をしていきたいと考える。

(7) H E L A S（食品ロス削減スマートフォンアプリ）について

【事務局】

お店が出品するロス食品と、消費者を結びつけるスマートフォンアプリで、信濃毎日新聞社や小諸商工会議所等が協同して、7月に実証実験を行っている。

これまで賞味(消費)期限が近付いた等の理由で廃棄されていた商品をスマートフォン上で売買できる。

現在、小諸市内で8事業者が出店しており、消費者は通常より安い値段で商品を購入できる。

食品ロス削減はSDGsの「目標12」に掲げられている重要なことである。

委員の皆様も食品ロス削減に努めていただきたい。

(8) その他（次回日程等）

○ 第13回市民会議 令和5年9月26日（火）18時～

○ プラ新法に関わる工場見学 令和5年9月中

【事務局】

事前にメールでご案内したが、プラ新法に関わる工場見学を実施したいと考えている。

これから、小諸市でプラスチック資源の一括回収を進める場合、工場見学は必須である。

見学先は、富山県富山市の事業者を検討している。

この事業者は、プラスチック資源一括回収の先進的な事業者であるため、見学先に選定した。

実施時期は、令和5年9月の平日2日間で、2グループに別けて、半数ずつ見学に行く予定である。

交通手段は、市役所のワゴン車で、乗り合いで行く計画である。

メールで委員の予定を確認し、候補日を絞ってきたので、これから日程調節を行いたい。

市民会議委員の皆様にも是非積極的にご参加いただきたい。

【委員】

ワゴン車で行く計画になっているが、バスは借りられないのか。

小さい車で富山まで行くのは大変であるとする。

また、富山までわざわざ行く必要はないと思う。

他にもプラスチック資源の一括回収に対応している事業者はある。

富山よりも近い場所に所在する事業者でも良いのではないのか。

【委員】

バスだと、バスのレンタル代が掛かるし、運転手もお願いしないといけない。

市役所のワゴン車でも良いのではないかと考える。

【事務局】

事業者から10名程度での見学をお願いしたいと言われている。

市民会議委員や事務局の人数を合わせると、17名となる。

2班に別ける必要があるので、1回の見学人数は、8名前後になる。

少人数だと、人数の関係でバスを借りることができない。

このような理由で、ワゴン車で行く計画となっている。

【委員】

富山まで行くのは遠いという意見もあるため、別に見学できる事業者がないのか、全員が一度に見学できる場所がないのか等を調べていただきたい。

現在の見学案が最善であると分かった場合は、会議後にメール等で再度提案いただきたい。

【事務局】

今回の会議では、ごみ処理基本計画やごみ減量ストーリーの具体的な説明をさせてもらい、委員の方から様々な意見をいただいた。

小諸市は、市民一人1日当たり22gの減量を目標とする。

1円玉は1枚1gなので、22枚分を減量しなければならないということである。

このように分かりやすい表現を考え、市民に対して伝えていきたいと考える。

また、プラスチック資源の一括回収の関係は、実施する方向で進めていく。

収入証紙の値上げの関係は、良く検討していかなければならない内容であるため、今後の会議でご意見をいただきたい。

今後とも小諸市のごみ減量のため、ご協力いただきたい。

5 閉 会